

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

No.1

学校番号	16	学校名	県立大子第一高等学校				課程	全日制	学校長名	根本 常 則								
教頭名	岡田 和 夫								事務長名	平根 栄 一								
教職員数	教諭	15	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	4	実習教諭, 実習講師, 実習助手	6	事務職員	3	技術職員等	6	計	37		
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	農業科				3	7	2	1	3	0			5	0	2	2		
	森林科学科				3	6	4	3	3	0			6	9	4	2		
普通科				1	1	2	6	1	5	2	4			2	6	5	0	2

2 目指す学校像

心身ともに健康な人物を育成するため、豊かな教養と理解力、豊かな人間性・じょうぶな身体とたくましい心・郷土を愛し協力し合う心を持った生徒の教育に至誠・勤労・協和の校訓のもとに当たる。地域の学校として地域の期待に応えられる学校を目指し、教職員が共通理解の基に学校運営に努め、生徒一人一人の夢が叶えられる学校作りを進める。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
進路実現のための指導充実。	本校生徒は進路問題を自らの問題として捉えて、真剣に取り組むのが遅い。	学校挙げて早期の進路指導に取り組み、各生徒の進路希望が100%達成出来る出口指導を目指す。出口指導の成果で地元の評価の改善につなげる。
学習実態。	学習時間の確保が不十分である。	少なくとも「学年+1」時間の学習時間を徹底させる。「資格取得」を目指した指導で興味関心を高める。
学方向上。	自らが基礎学方から発展的な段階へ高めようとする意欲が低い生徒が多い。	習熟度別編成授業のきめ細かい指導により、生徒の学力伸長を図り、追検査受験者数を一桁台におさめる指導を行う。また、平常時と長期休業時の課外への参加率を高める。
生徒の学校生活の充実。	生徒との面接時間を確保すること自体が大変であるが、問題解決に欠かせない。	生徒一人ひとりに密接に関わり指導できること。様々な問題を抱える生徒の対応が難しい。

4 中期的目標

農業科・森林科学科・普通科それぞれの特性を活かしつつ、学校全体で学力向上の継続的指導や進路意識を高める指導等により、生徒の進路目標が達成できるように体制を強化する。又、地域からの信頼を高め、地域を担っていく人材の育成に努める。本校は2年後に高校再編整備計画によって、実質的に廃校となるが、最後の卒業生を送り出すまで全力で当たり、100%の進路達成を目指し、新しい高校作りの橋渡しの役割を果たしたい。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	自発的学習態度の育成。	(1) 学習意欲の喚起を図る授業展開の工夫。 (2) 図書室・学習室の利用を促進。 (3) 課外等への参加の促進。 (4) 資格取得を目指す生徒の育成。	
	指導体制の確立。	(1) 習熟度別授業等による徹底指導。 (2) 課外・研究授業の実施。	
	規範意識の高揚と自己教育力の育成。	(1) 「豊かな人間性を育む体験活動推進事業」等への参加により「他人を思いやる心」の育成。 (2) 問題行動の無い落ち着いた学校生活の確立。	
	保護者・地域との連携。	(1) 地域の教育力の活用（「地域の声」の把握）。 (2) ホームページを活用した学校教育活動の広報。	
2年次	自発的学習態度の育成。	(1) 学習意欲を持続させ、100%の進路達成を目指した徹底指導。 (2) 課外への積極的参加の促進。	
	指導体制の確立。	(1) 習熟度別授業の継続的实施と成果の向上。 (2) 個人の能力と進路目標に対応した指導の充実。	
	規範意識の高揚と自己教育力の育成。	(1) 「豊かな人間性を育む体験活動推進事業」等への参加により「他人を思いやる心」の育成。 (2) 問題行動の無い落ち着いた学校生活の確立。	
	保護者・地域との連携。	(1) 地域の教育力の活用（「地域の声」の把握）。 (2) ホームページを活用した学校教育活動の広報。	
3年次	在校生なし		